



## 言葉を紡ぐ

# ホラン千秋

メッセージカードを書くのが好きです。小さい頃から、レターセットやメモ帳が大好きだったのですが、七年前、仕事でアメリカに行った時に入った文具屋さんで、端から端まで並んだカードの可愛さに目を奪われて。アメリカはメッセージカード文化なので種類が豊富なんです。サンキューカード、バースデーカード、日本では見ないデザインだなと思って、そこから本格的に集め始めました。

贈るものだけでなく、使っちゃうのもつたいたなくて、特にお気に入りのデザインは、使う用と保存用で二つずつ買っています。最近では日本でも季節を問わずお洒落なカードが手に入るので、コレクションは増えるばかり。このカードはあの人が喜びそうとか、贈る人を思い浮かべながら選ぶのも楽しいですね。まず

カードを見て「可愛いー!」開いてメッセージを読んで「嬉しい!」。そんな二段階のワクワクを感じてほしくて、いろいろな言葉をカードに載せて贈っています。

気持ち伝えるのは、もちろんメールでもいいと思いますが、なにか紙に顯れること、こんな字を書くんだとか、こういうイラストを添えるんだとか、そんな素の人間性みたいなものが、デジタルのフォントでは映し出されない部分に少しずつにじんできると思うし、やっぱり手元に届くという特別感は大い。郵便受けに封筒が入っていたらすごく嬉しいサプライズですね。だから大事な気持ちを伝えたり書き記す時には、目に見える形・さわれる形で紙に残したいんです。

メッセージカードって、とっておいたり飾ったりしますよね。そういう消費されないものであるところも、紙がちゃんと一生を遂げられているような気がして私は好きです。

紙を一回きりの消費にしない。母がそういう意識のある人で、チラシの裏をメモ帳にしたり、紙をリサイクル用に分別したりは当たり前でした。役目が終わったからごみ箱に捨てるんじゃないかって、使えるものは何度でも使おうという意識です。自分がやっているのと周りにも「そう



ほらん・ちあき●1988年東京都生まれ。アイルランド人の父と日本人の母をもつ。5歳よりモデルを始める。青山学院大学文学部英米文学科卒。現在は「Nスタ」(TBS)、「SONGS OZ F TOKYO」(NHK)をはじめ、バラエティ・報道番組、ラジオなどで数々のレギュラー番組に出演するほか、新聞連載など執筆活動も意欲的にこなしている。

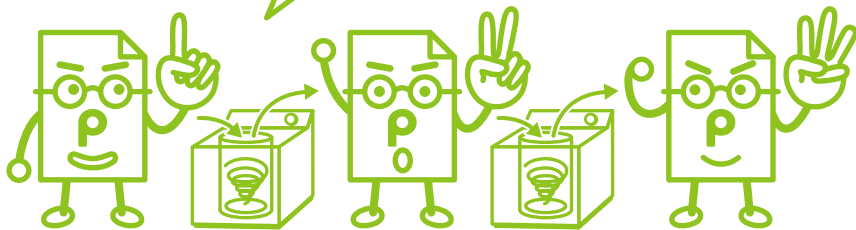
か、紙はリサイクルだよ」と連鎖していくものだと思うし、業界の努力だけでなく使う側の責任として、私たち一人一人個人の心がけて輪が広がっていくといいな。今はSDGsが掲げられていて、その中に「作る責任、使う責任」という項目があります。多くのものに「使えるものは何度でも」というマインドを持つておくのは大事だと思います。「ありがとう」のカードを贈るのは、特別な思い出や体験、優しさや思いやりをいただいた実感があって、それに感謝の気持ちをお返したいから。鏡みたいなものですよ。心からの言葉として伝えるために、メッセージカードを前に言葉を紡ぐ時間を大切にしています。

私もいただいたカードは大切にとってあります。これだけたくさんの人と関わって、支えられているんだということが、紙だからこそ見える、さわれる。何か自分が歩いてきた、生きてきた証にもなっているような気がしています。

## ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

### 紙の人生は、3回以上ある。

紙は「パルプ」と呼ばれる木材などの植物繊維の集合体。だから、ときほぐして、インクなどの余分なものを取り除けば、また紙になれるんです。ちょうど洋服を洗うみたいに、紙専用の洗濯機でかき混ぜると、トトロの繊維の状態に。何度もくりかえすと繊維は劣化していくけれど、一般的には3~5回もリサイクルできるんだって。



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

<http://kamitsubu.com/>

今回は11月4日号です。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo : Atsushi Hashimoto